

リゾート開発と環境問題 in西表島

～観光による島の活性化と環境問題、
対立する選択肢～

小池洋次 遠山美帆 兵頭秀昭 高橋佑介



新聞記事の要約

東洋のガラパゴスと呼ばれる沖縄県の西表島に、沖縄でも最大級の大規模リゾートホテルが4月にオープンした。しかし、西表の環境破壊を危惧する住民も多く、問題となっている。規模が大きすぎるために、質的・量的規制のない西表では環境問題が深刻化するの明らかであり、早急な対応が求められている。

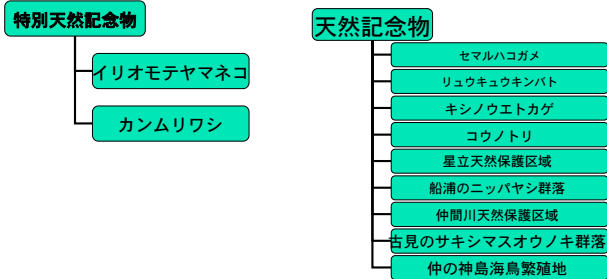
西表島とは...!?

- 西表島は北緯24度15～25分 東経123度40分～55分の東シナ海上に位置する島。
- 日本最南端の八重山諸島に属する。
- 沖縄県では、沖縄本島の次に大きな島。
- 竹富町は日本最南端の町で、石垣島の南西に位置する大小16もの島々からなる。西表島も竹富町に属する。

西表島の位置



西表の国指定文化財



これまでのリゾート開発の経緯

- 町は、県への開発許可申請は**住民同意書**をとった上で行うことを約束
 - ↓
- ユニマツトと町は、水面下でこっそりと県に許可申請を提出
 - ↓
- 2002年9月24日、発覚!!!
 - ユニマツトと町への不信感
 - ↓
- ユニマツト・リゾート反対運動開始

リゾート開発の概要

<現状>	<主な対立>
多くの反対を押し切って 2004年4月に開業 。 現在裁判中・・・；	竹富町長 ユニマツト不動産 VS
今年6月に第4回裁判 期日決定	反対住民 環境保護団体 etc

ユニマツト不動産の巧妙な手口



- 代表取締役T氏の策略
リゾート計画地に住民登録をして、莫大な住民税を自治体に納め、合法的に自治体に大金を払い、リゾート開発への協力を求める。
- 宮古島の例あり。

反対する環境保護団体

- 西表の自然を愛する会
- 西表の未来を作る会
- 日本ベントス学会
- 西表リゾート開発に懸念を抱く市民の会
- 西表の森と海を守る会
- 日本生態学会
- 日本魚類学会



反ユニマツ側の活動内容

- 政府・県・町・ユニマツサイドの対する抗議文の提出
- 訴訟
- 全国的な運動
 - 電子メールによる署名運動
 - 大学やイベントなどの講演



なにが問題なのか・・・

- 沖縄県の条例
リゾート開発の場合、20ha以上の開発でなければ環境影響評価（アセスメント）は義務付けられていなく、ユニマツの場合環境アセスの法的義務は発生しない。
- 不十分な環境調査
ユニマツ側の短期間で不十分な環境調査では、環境に配慮した工事・営業は信用しがたい。
→環境に対する問題。

西表島の環境問題

- ごみ問題
- エコツーリズム
- 移入種（公共事業）
- イリオモテヤマネコとセマルハコガメの絶滅危惧



ごみ問題について

- ゴミ回収システムの不備
→露天のゴミ捨て場に分別されずに放置
- 島民のごみ問題に関する関心の低さ
- リサイクルの難しさ
- 観光客増加によるゴミの増加
- ホテルから出るゴミや排水による土と海の汚染、富栄養化によるサンゴ礁や海の生物への影響

移入種と公共事業について

- 大型リゾート建設や公共施設建設のために島の外から多量の物資を搬入。
↓
物資に混ざって移入種が侵入
- 移入種の影響
島では生態系が狭い面積の中でコンパクトに完結している。
↓
そのため移入種が在来生物へ悪影響を与える
- 移入種の例
オオヒキガエルが道路拡張工事などの資材置き場とその周辺から発見された。
オオヒキガエル：北米テキサスから南米北部にかけてが原産
体長数10cm～24cm
体表から猛毒を分泌
口に入る大きさの動物は何でも食べる
移入経路：サトウキビ畑の害虫駆除目的に、ハワイ、小笠原を経由して南北大東諸島へ移入、70年に石垣島に到達。

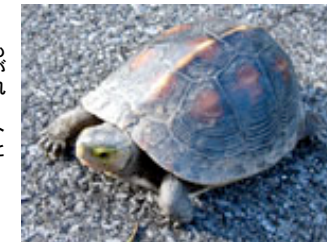
イリオモテヤマネコの絶滅危機

- イリオモテヤマネコ：八重山諸島の西表島だけに分布するヤマネコ
体重4kg前後
暗褐色の体毛
夜行性
特別天然記念物として保護されているが、生息数は100頭以下と推測され、絶滅の危機が高まっている。
生存をおびやかす原因：
もともと生息しているのが狭い島なので、頭が少なく、絶滅しやすい状況にある。
 - 人間による島の開発。
←イリオモテヤマネコの生存をおびやかしている最大の原因
 - 交通事故。
 - イエネコとの競合。



セマルハコガメの絶滅危惧

- セマルハコガメ：
石垣島、西表島に生息。
体長11～17cm
卵型の背甲
- 生存を脅かす要因
 - リゾート建設現場にはもともとセマルハコガメが多く、生息地が狭められる。
 - 陸上動物なのでリゾートの敷地から遠ざけることが困難
 - 工事現場での交通事故



エコツーリズムとは・・・

- 自然環境を守り、そこに住む人々の生活向上に貢献できる「責任ある旅」の形態である



エコツーリズムin西表島

- コスタリカの例
 - 1980年代経済発展を目指して森林伐採を進めた結果、逆に国家経済が行き詰まった。
 - 環境経済学的手法をもとに環境コストを評価。→森林伐採のマイナス効果が経済を押し下げたことが明らかに。
- コスタリカ政府の取り組み
 - 国土の4分の1が国立公園や自然保護地区。
 - 地球上の全動物の5%（鳥類は10%）が生息する。
 - 観光産業やエコツアーは外貨獲得第1位です。

西表島のエコツーリズム

- 西表島は「東洋のガラパゴス」と称されるほど豊かで多様な自然に恵まれた島。
- エコツーリズムを広めようと西表島エコツーリズム協会が一九九六年に発足。
- 九九年度の地域づくり自治大臣賞を受賞。
- しかし実際は・・・



西表島のリゾートホテルの解決策はないのか?!

- 新聞記事にもあったように、現在法的な規制がない西表では開発に対する制限がつけづらく、早急なガイドライン作りが重要である。
- 先に定義したエコツーリズムに基づいた、生態系や地域文化に悪影響を及ぼすことのないエコツアーに方向転換すべきである。



参考文献

- <http://homepage3.nifty.com/blackbisi/>
- <http://fairy.kais.kyoto-u.ac.jp/biriken/ochi/iresort/index.html>
- <http://www.interq.or.jp/blue/takedive/sos.html>
- http://www.nacsj.or.jp/old_database/iriomote/iriomote-index.html
- <http://www.scn-net.ne.jp/~clutch/kizimunah.html>